

5132

(上段)

御船大将香河次郎右衛門様より
文政元年寅十月十七日
御用状同月廿日夕

新九郎五左衛門両人鳥府より
取帰其翌廿一日慶三郎
半三郎両人石田氏^江為持
差出置、其後兩人
差揃右御用状写
取置^ニ付、尙左^ニ書頭置事

ノ

猶以余^者貴殿存寄ヲ以

能程^ニ取計可被申候、以上

一筆申入候、然^者先達^而

被申達候其表大谷新九郎

内田五左衛門願之趣申達し

森佐左衛門杯も相考候へ共

御評義難被申当役手

^{ニ而}申立候趣意^ニ無之

依之近江殿^江も御断

申達候、乍併近江殿

厚内々被相頼候様子も

(下段)

有之^ニ付先御船手御用達

相勤候様可被申聞候、右^ニ付

浜方之義も貴殿存寄を以

被差出候^而可然被存候義も

候得^者可被差出候御為筋^ニ

相成候義ハ貴殿へ申達候様

可被申聞候、出精相勤候へ^者

追々存寄も可有之候

新九郎義^者干鰯改メ

役相勤候存寄も有之候ハ、

可申付間其旨可被申聞候

余^者重便可申入如斯候
恐々謹言

香河次郎右衛門

十月十七日

石田正藏殿